

自分もできる CO₂削減

ねらい・目的



札幌市の CO₂ の排出量の増加率が全国平均を上回っていることを知ることで、これからの地球環境問題について、自分でできることは何かを考え、それを実行に移すことができる生徒になることが期待できる。

取り組みの背景として



札幌市の 2004 年度（平成 16 年度）の CO₂ 排出量は、1,139 万トンで、市民 1 人当たりの排出量は 6.1 トンになります。京都議定書の基準年である 1990 年度（平成 2 年度）から 2004 年度（平成 16 年度）の CO₂ 排出量の増加率は、札幌市全体では 23.9% 伸びています。そして、札幌市の部門別における CO₂ 排出量では、市民生活に関わるところからの排出量が大きな割合を占めています。

さらに、札幌市の世帯当たりの CO₂ 排出量は、全国平均と比較すると約 1.3 倍になっています。

このままだと

CO₂ 排出量を減らすことができず、地球温暖化がさらに進んでしまいます。

だから

札幌市は、2017 年度（平成 29 年度）までに市民 1 人当たりの CO₂ 排出量を 4.95 トンまでに減らすことを目標としています。

自分でできる CO₂ を減らす方法を考え、行動しましょう。

取り組み項目(実施方法)



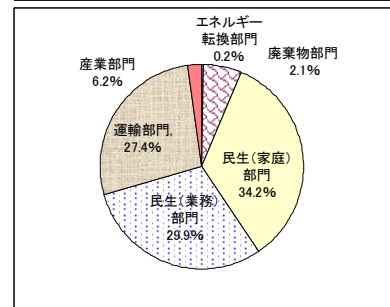
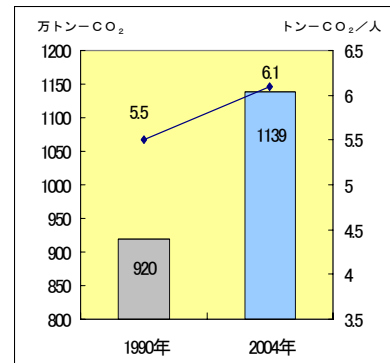
- ① 札幌市の CO₂ 排出量の伸びが、全国平均を上回っていることを知る。
CO₂ 排出量の増加が地球環境に対して、どのような影響を与えているのか調べる。
- ② どのような行動が、CO₂ を排出することになるのかを考え、調べる。
自分の日常生活の中で、CO₂ の排出につながる行動を知り、その行動について考える。
家庭や地域に戻り、学校で学んだことを実際に行動に移す。

取り組み 1

札幌市の CO₂ の現状を知る

ポイント

- ・ 2004 年度（平成 16 年度）の札幌市の CO₂ 排出量は 1990 年度（平成 2 年度）の約 1.2 倍になっていることを知る。
- ・ なぜ、家庭から出てくる CO₂ が全国より多くなっているのかを考える。
（冬期間の暖房利用など）
- ・ 市民生活にかかわる部分からの排出量が、大きな割合を占めていることが分かる。



自分たちの生活の工夫で、
CO₂の排出量を減らせることに気づく。

取り組み 2

自分ができることは何だろうか

ポイント

- ・ 灯油などの化石燃料の大量消費が CO₂ の濃度を高めることを知る。
- ・ 札幌市は「エコライフレポート」などの普及啓発事業に取り組んでいることを知る。
- ・ 日常活動の少しの工夫で、CO₂ 排出の抑制ができることを知る。



これらの内容から、どのようなことで
CO₂が出ているのかを考える

日常生活の工夫で CO₂ 排出量を削減できることを理解する。

取り組み効果



効果 1 省エネ意識が高まる

自分の日常生活の少しの工夫が、目に見えない地球温暖化の抑制につながっていることを知り、生活習慣の見直しをするようになる。

効果 2 省エネ行動を確認し、実行してみようと思う

自分の日常生活が CO₂ の排出に関わりをもっていることを理解することで、「エコライフレポート」にある項目と日頃の自分の行動を比較し、普段の生活を見直し、身近なことから取り組んでみようとする。

他のプログラムとのつながり



■Sapporo エコライフ実践校の取り組み（中学・高校編）

環境 ISO を含め、全校的な環境配慮の取り組みを推進する。

■省エネ大作戦（家庭・地域・職場編）

家庭でのエネルギーの使い方を振り返り、簡単にできる省エネに取り組む。

参考資料等



1

「札幌市環境白書」

http://www.city.sapporo.jp/kankyo/kankyo_hakusyo/

2

「さっぽろエコ市民運動」（エコライフレポート）

<http://www.city.sapporo.jp/kankyo/ondanka/ecoshimin/>